

## 地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。  
この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。  
また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・ 利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・ 事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・ 運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	社会福祉法人 清水新生会
代 表 者 名	理事長 野村 正昭
事 業 所 名	グループホームかがやき荘
評 価 確 定 日	2021/12/22

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700187		
法人名	社会福祉法人 清水新生会		
事業所名	グループホーム かがやき荘		
所在地	坂井市三国町陣ヶ岡13-3		
自己評価作成日	令和 3年 8月 27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 3年 9月 16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小学校、子ども園、ボランティアなど地域との交流を定期的に行っている。現在、コロナ過でできないことが多いが、ボランティアの方と細目に連絡を取ることで、制作物などの寄付かあり次に向けた交流が出来ている。時期を見て、人ごみの少ない所へ個別で外出できるよう調整するなど、少しでも外に出る機会を作っている。施設内でも、認知症カフェや、毎月回ほどの季節に合った行事を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県内の有名観光地である東尋坊に近く、自然に恵まれている。事業所には、小規模特別養護老人ホームと短期入居生活介護、小規模多機能型訪問介護が併設しており、住み慣れた環境で生活できるよう支援している。利用者に何がしたいか尋ねると「何もしたくない」と答える利用者が多いが、職員は個別ケアの大事さを感じて支援を行っている。職員は、利用者に個別に寄り添って思いや意向を聞いている。毎日入浴日であり、利用者は、日中いつでも職員との会話を楽しみながらゆっくり入浴することができる。また、ハピネス認知症カフェを設立し、地域の交流や福祉の場として3名のボランティアの協力を得て開催する予定だったが、コロナ禍のため開催を延期している。ボランティアから手作りの作品が届く等、交流を継続しながら開催を待っている状態である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念をホールに掲示し、毎月の職員会議にて復唱し理念の共有に取り組んでいる	法人の理念と行動方針を毎月の会議で唱和している。職員間で話し合い、毎年スローガンを決定している。今年度のスローガンは「される人もする人もうれしい楽しい」であり、職員間で意識を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過でなかったら毎年地域行事(社社の祭り)で施設に神輿が来たり、利用者が作成した雑巾などども園や小学校に寄付をし、交流を図っている	ハピネス認知症カフェを設立し、地域の交流や福祉の場として3名のボランティアの協力を得て開催する予定だったが、コロナ禍のため開催を延期している。ボランティアからは時より作品が届く等、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族に対して認知症の理解や相談、アドバイスを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っていたが、コロナ過で書類を配布するだけになっている	コロナ禍のため、構成メンバーに資料を配布している。議事録はパソコンで閲覧している。	運営推進会議の目的である「地域に開かれたサービス」の質の向上を図るために、委員の意見をもらえるような工夫に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の留意点やサービス提供などについて市の担当者に連絡を取り、指導を仰いでいる。先日は市の高齢福祉課から利用者の措置的預かりを依頼される	広域連合とは制度的なことを相談している。地域包括支援センターの職員とは運営推進会議・防災委員会出席の際に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束委員会の後に各ユニットを拘束していないか巡視している。また、身体拘束委員会の勉強会があり、リモートで参加し振り返りシートにまとめている	身体拘束委員会を毎月開催している。勉強会はリモートで行い、振り返りシートの意見を集約・分析し、玄関に掲示している。空腹感のある利用者への対応は拘束であるかを討議する等、日常的に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修(勉強会)にて虐待事例を周知し、施設内の虐待防止に努めている。また、毎月の委員会で情報共有を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人での研修等はあるが、話し合いは実施されていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約は利用者と家族との最初の共同作業であると考え、必要書類について十分に説明を行い家族からの質問にも丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において家族代表者に施設運営と改善点や要望についての意見を頂いている。面会時やケアプランの更新時にも、家族に意見を聞く機会を作ってる	毎月の受診や面会、電話の際に意見・要望を聞いている。広報誌で日常の様子を報告している。コロナ禍以前は家族会の設置やアンケートを行っていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議や個人面談にて意見を聞く機会を設けている	毎月の会議や申し送りの際等、日常的に意見を言える関係である。LINEで意見をやり取りする職員もおり、意見を運営に反映する機会を多くもっている。また、各自メモ帳に気づきを記録している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整など就労環境の整備に努めている。また、個別目標シートや評価シートを実施し、適切な評価を行いやりがいのある職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修は全体計画に基づいて実施している。職員には外部研修の情報提供を行い、希望する研修に参加できるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は外部研修や介護福祉士認知症専門士等の研修や会合に参加し、他の事業所の方と情報交換を行い、参考点は積極的に取り入れていたが、昨年からのコロナ禍において集合は出来ずリモートなどで行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人の要望を聞いたり、初めての場所で不安にならない様話をしたり、安心して過ごして頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の本人の様子や家族が不安に思われることを十分に聞き、入所後の様子を伝えている。月に1度家族宛に1か月の様子を書いた手紙を出している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向や希望を把握し、安心してサービスを受けられる様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩から学ぶという姿勢で共に生活しており、料理(漬物や梅干し作り)など作品と一緒に作ったりと共に出来ることを増やしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、受診時や電話等で本人の状態、普段の様子を伝えている。家族とも相談し、出来る事はして頂き利用者と家族が良い関係が築けるよう支援する		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が行えない時は、電話で家族や知人と話をしている。家族協力のもと昔から通っている美容室に言ったり、行事等で周辺のドライブを行っている	利用者全員が毎月の受診で家族に会うことができ、他にも通話等により馴染みの関係を継続している。個別ケアを重んじ、本人が行きたい場所に行けるように1対1で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、個別に話を聞き皆さんが楽しく過ごして頂けるよう、テーブルの配置や席替えを行い、利用者の過ごしやすい環境作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了する際には、次へ移る先の担当者への情報提供、家族からの要望があればその後の相談や思いに耳を傾けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意思を一番に考え、サービスを行っている。生活する中で利用者の思いを聞いたり気付いたことなどあれば、職員で共有し、利用者の希望に添えるよう努めている	現在は会話ができる利用者が多いため、日常的の会話から利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや家族からこれまでの生活環境、暮らし方を聞き、把握に努めている。利用者にも普段の日常でされていたことを聞き行える環境作りに勤めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの生活リズム、心身の状態を把握し自立支援を基本に1人ひとりに合った過ごし方を支援する。小さな変化があれば職員で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への聞き取りから心配事などを知り、本人の思いも聞きスタッフ間でカンファレンスを持ち、ケアに反映されるようにしている。日々の気付きは申し送りやケースに入れている	ソフトで管理しており、項目別に記録している。日常生活は日中・夜間に分けて記録しているが、介護計画に沿った記録が少ない。	介護計画の支援内容に沿った記録を行い、ソフトを活かした工夫を行うことに期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、水分、排泄チェックを付けており、記録している。日々の様子での気づきを申し送りやカンファレンスの場で情報共有し、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況の変化、急変時等に対して適切に対応できるよう取り組んでいる。必要であれば職員の勤務体制、時間の調整を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で、今までの地域との交流がなくなったが、定期的にボランティアの方と連絡を取り、制作物の寄付など少しでも交流できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、本人家族の信頼されるかかりつけ医に受診している。施設での状態等、記録やメモを渡して、連携を取っている。	全員がかかりつけ医を継続しており、毎月家族が受診に同行し、症状の経過や処方薬について報告している。必要に応じて職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う事等がある時など、常に職員同士の情報の共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子など、定期的に病院に連絡し、情報の共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状態が重篤した場合、個別に家族、主治医と話し合い、その方にふさわしい場所を提供できるよう支援している。	入居時に説明し、主治医や家族と相談の上支援を行っている。現在、重度化が進んでいる利用者の対応は主治医や家族等と相談し、終末の直前まで支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを手の届く位置に配置し、勉強会等を通じ備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行動マニュアルを作成し、職員がいつでも読めるよう対応している。	前回の外部評価後に、マニュアルを見直し役割分担を明確にした。年2回、防災・避難訓練を行い、年1回、防犯訓練を開催している。玄関フロアに防災用具室があり、備蓄品を管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心を大切にし、言葉使いに注意し対応している。	毎年「職員研修計画」に組み込み、個別ケアで対応している。人格を尊重し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者には常に選択できるよう、声掛け、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望が通るように対応し、無理強いしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりのこだわりを大切にし対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設での畑で野菜等を作り、収穫、調理までを職員と一緒にしている。	法人の厨房に業者が入り調理されている。事業所の中庭の畑で収穫した野菜は利用者と一緒に作り献立より1品増える。行事食やおやつ作りも毎月開催され利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量など共有できるよう、表を作成し不足が一目でわかる様対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回の口腔ケアは大切だと思うが、利用者のやる気にも差があるため、強要はしないが、夕食後の口腔ケアの声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時汚染する利用者は、見守りして一部介助している。失禁で汚染する利用者は、時間で誘導している。	排泄パターンを把握し、その人に合った声掛けや誘導を行い支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	荘内の散歩や水分を多めに摂取してもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めて入浴前に声掛けし、拒否された場合は、日にちを変えるなど無理には勧めない。	毎日入浴日であり、利用者は職員と会話をしながら、好きな時間にゆっくりと入浴している。入浴剤を入れる他、ゆず湯やしょうぶ湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気分が落ち着くよう、芳香剤を使用したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理は看護師がしており、状態に応じて内服薬の対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業や行事など参加してもらい、楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの影響で外出しにくい、天気や人込みを避け、少人数でドライブできるように支援している。	コロナ禍ではあるが、ドライブも個別に対応し、利用者の希望に沿った支援を行っている。玄関のフロアや中庭にもいつでも出ることができ、開放感がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持できないが、欲しいものがある時は個別にて買い物に行けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親族、知人からの電話は、本人とゆっくり話せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開け閉めや、空調の調整をすることで、それぞれに合った居場所が作れている。	事業所の入り口に利用者の作品や行事の写真を展示しており、癒しの空間となっている。共用空間は広く明るい。中庭にて畑や洗濯干し、バーベキュー等ができ、自然に恵まれた環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に、利用者の状態を見て席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや、タンスなど馴染みの物を居室に置く事で、その人らしい空間が作れている。	洗面所・ベット・椅子を設置している。利用者はテレビやタンス・洋服掛けを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人のレベルに合わせて、席替え、居室移動をし、安全に過ごせるよう工夫している。		